

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大阪市立関目東小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 536-0008
大阪市城東区関目4-12-15

E-mail : e172114a@ocec.jp

Website : http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e691553

児童生徒数：男子 270 名 女子 226 名 合計 496 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

- ・ 1年生は「じぶんだいすき・ともだちだいすき」と題し、自尊感情を高める活動に取り組んだ。
また、ミャンマー人児童が入学したのをきっかけに、1年生はミャンマーのことを学び、6年生の協力のもと、NPO 法人ジャパンハートを通じてミャンマーの児童養護施設「ドリームトレイン」と『わたしのゆめ』『日本のおしょうがつをしようかいしよう』の絵画交流をした。ミャンマーの孤児たちが、将来に夢を持ってない境遇からドリームトレインに来て夢を持てるようになったことを聞いて、日本とミャンマーの子どもたちがお互いに夢を持って生きていけることを願いこの活動を行った。
- ・ 2年生は綿の栽培を通して㈱フェリシモ、キッズプラザ大阪、八尾市立歴史民俗資料館、JICA関西等と連携し、インドの綿栽培の村やそこにある小学校と交流した。インドの綿栽培農家から後継者となる若者が村を出て都会に働きに行くことを知って、綿栽培に誇りを持ち、自分の村を大切にしてほしいとの願いからこの交流を行った。
- ・ 3年生は近くにある鶴見緑地のどんぐりについて学ぶ際に、本校卒業生がリーダーを務める近畿大学農学部環境サークル「FeeLink」、当該学生を指導した一般社団法人自然大陸と連携をした。大学生と本校児童が3回にわたってフィールドワークを含む活動を行った。近くにある鶴見緑地の自然を意外に知らず、学習のフィールドとして活用していなかったことを反省し、身近な自然のおもしろさを知り大切に思う子どもに育ててほしいという願いを込めてこの活動を行った。
- ・ 4年生は、生き生き地球館、NPO 法人大阪モツゴ物語、I LOVE 城北川実行委員会などと連携し、学校の横を流れる城北川について学び、そこに生息するモツゴを飼育・放流した。学習の中で話し合いを重視し、ひとりひとりの意見を互いに尊重し合うことを大切にされた。学校の横にありながら城北川の歴史やそこに住む生き物をあまり知らず、学習のフィールドとして活用していなかったことを反省し、3年生と同様、身近な自然のおもしろさを知り大切に思う子どもに育ててほしいという願いを込めてこの活動を行った。
- ・ 5年生は NPO 法人 ACE、関目商店街振興組合、関西大学政策創造学部深井ゼミ商売研究班等と連携し、チョコレートを通して児童労働の問題に取り組んだ。身近な食べ物であるチョコレートに焦点を当て、その生産地や生産過程を知ることで児童労働の実態に迫り、自分達と同じくらいの年齢の子どもたちが置かれている余りにも違う境遇に目を向けて、消費者としての自分の行動を考え直したり、世界の経済の仕組みに興味を持ってフェアトレードなどの活動を応援する気持ちを育てたいとこの活動を行った。
- ・ 6年生は、開発教育協議会と連携し、100円ショップを通して世界の経済格差、不公正貿易、児童労働、労働条件などの問題について学んだ。

100円ショップという安くて便利な店。その「100円で売れる」ことの裏にはどのような仕組みがあるのか。身近な店を取りあげることで関心を持って流通システムや労働条件などを調べ、人権の観点からどのような問題点があるかを明らかにした。そして、今後の自分自身の消費行動について考え、10年後の自分に手紙を書くことで、行動の変革を確かめた。

また、1年生が交流した「ドリームトレイン」の創設者でNPO法人ジャパンハートの代表である吉岡秀人医師を招き、「いのちの授業」を実施した。設備も十分でない環境で自らの存在意義を問いながら貧しい人々の命を救う吉岡医師の話は、夢を持って中学校へと進学していく児童に「人のために役に立つ人生」という視点を強烈に与えた。

- ・学校全体としてJICA 関西から4年間海外研修員との交流事業を行っている。日本では情報の少ない発展途上国から来たJICA研修員と交流することで視野を広げ、知らなかった国に興味を持った。また、教職員がJICA研修員と交流を続けることで研修員の帰国後も交流が続いたり、現地の学校と交流ができた。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()